

佐々木 久枝（ささき・ひさえ）

1、プロフィール

歌人。昭和 21 年八戸高等女学校在学中から作歌。42 年「国原」の稲垣浩に、49 年「まひる野」の窪田章一郎に師事。54 年詩歌誌「若菜」創刊。万葉学者の犬養孝に師事し、平成元年から長きにわたり、NHK 八戸文化センターで「万葉集」の講座を持った。

<生没>

1931(昭和6)年3月22日～2015(平成27)年7月21日

<代表作>

『佐々木久枝歌集—若菜野—』『佐々木久枝詩集—塔屋—』『佐々木久枝歌集万葉幻想』

<青森との関わり>

函館市生まれ。昭和 54 年、八戸で詩歌誌「若菜」を創刊主宰。青森県歌人懇話会常任理事、八戸市文化協会監事を務めた。

2、作家解説

久枝は地域社会の、学習レベルの発揚を促し、自ら 49 年には八戸短期大学、60 年には八戸大学を卒業した。老若相睦む会の場として美保野、母校の短大・大学や光星学院高等学校、吹上、三八城、階上等各地に短歌会を開き、その活動は 10 指を越え、また平成元年から 14 年間、NHK 八戸文化センター「万葉集」の講座を担当し「北日本万葉の会」を創立する等青森県の短歌の普及と発展に尽力。八戸大学卒業後は光星学院高等学校に国語講師として勤務した。

昭和 52 年、第 3 回青森県短歌賞(青森県歌人懇話会主催)を受賞。昭和 63 年 3 月 1 日には日本現代歌人叢書第 50 集として『佐々木久枝歌集—若菜—』を、同年 3 月 10 日には日本現代女流詩人叢書Ⅱ第 24 集として『佐々木久枝詩集—塔屋—』を、いずれも芸風書院から刊行した。平成 26 年 10 月 10 日には東奥文芸

叢書短歌 10 として『佐々木久枝歌集 万葉幻想』を刊行。これらの著書のほかに『若菜合同歌集』や『若菜合同随筆集』を編集発行している。

「東奥日報」「デーリー東北」の歌壇の選者を務め、北奥羽短歌大会、青森県学生短歌大会等の選者を歴任。それら数々の功績により青森県歌人功労賞、八戸文化賞、八戸文化功労賞等多数受賞した。歌碑は八戸公園「文芸のこみち」と浅虫温泉森林公園「歌碑の森」の2基が建立されている。

3、資料紹介

○『佐々木久枝歌集—若菜野—』

図書

1988(昭和 63)年3月1日

210mm×150mm

昭和 54 年創刊「若菜」に発表された作品 8 年間より 413 首を選抄し、年代順に 3 部構成された第 1 歌集。日本現代歌人叢書第 50 集として刊行。巻頭には八戸短大名誉学長「森田重次郎先生の書」と著者近影が、巻末にはあとがきと著者略歴が掲載されている。